

2020年夏に沖縄島 300水系で一個人が直接確認した外来魚の分布

嶋津 信彦

しまづ外来魚研究所

<https://shimadzu1984.wixsite.com/gairaigy>

外来魚の分布の現状を把握・監視することは、優先して調査・駆除・規制すべき対象を明らかにすることから、対策に不可欠といえる。第六回外来魚情報交換会では、2010 夏に沖縄島 300 水系で一個人が直接確認した外来魚の分布を報告している。本研究では 10 年前と比較するため、2020 年 6 月 15 日から 10 月 31 日に同水系において、延べ流程 265 km を踏査し、外来魚の分布を明らかにした。踏査範囲は、新たに立ち入り禁止になった場所や目視観察が困難な感潮域、危険な場所などの一部が除かれたが、2010 年に外来魚が確認された流程を可能な限り含めた。外来魚の確認は、川を遡りながら主に目視観察で行い、適時、潜水目視やタモ網での採集確認も併用した。南風原ダムでは投網による採集を行った。結果、2010 年に最も多い 141 水系から確認されたカワスズメ属は、103 水系からの確認にとどまり、著しい分布の縮小が示唆された。グッピーは、23 水系で新たに確認され、30 水系で再確認されず、合計では 120 から 113 水系に減少したが、沖縄島で最も広域に分布する外来魚となった。コイは、9 水系で新たに確認されたものの 19 水系で再確認できず、44 水系に減少した。ゲンゴロウブナは、生息域が調査されなかった。キンギョは、1 水系でのみ見つかった。ソードテールは、新たに 7 水系で確認され、23 水系に分布が増加したが 4 水系で再確認されなかった。プラティは、3 水系で新たに確認された。本種は 2010 年に確認された 1 水系を含めこれまでに報告されている 6 水系で再確認できず、定着には至らない場合が多いようである。その他の外来魚の分布は、概ね停滞している状況であった。新たな外来魚の繁殖は、埋立地の公園内の噴水池ではあるが、フランミンゴシクリッドで認められた。

表 1. 沖縄島における外来魚の分布水系数

和名	学名	2010年調査	2020年調査	文献記録を含めた 全確認水系数
コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	54	44	70
ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>			9
キンギョ	<i>Carassius auratus</i>	6	1	9
ゼブラダニオ	<i>Danio rerio</i>	2	2	3
パールダニオ	<i>Danio albolineatus</i>	1	1	4
アカヒレ	<i>Tanichthys albonubes</i>	1	2	3
ヒレナマズ属	<i>Clarias spp.</i>	3	2	5
セルフィンプレコ属	<i>Pterygoplichthys spp.</i>	11	11	15
リュウキュウアユ	<i>Plecoglossus altivelis</i>	4	1	15
カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	19	19	44
グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	120	113	151
ソードテール	<i>Xiphophorus hellerii</i>	20	23	29
プラティ	<i>Xiphophorus maculatus</i>	1	3	9
インディアングラスフィッシュ	<i>Parambassis ranga</i>	1	2	2
オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	2	2	10
ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	1	2	3
カワスズメ属	<i>Oreochromis spp</i>	141	103	175
ジルティラピア	<i>Coptodon zillii</i>	5	5	6
コパディクロミス属	<i>Copadichromis sp.</i>		1	1
コンビクトシクリッド	<i>Amatitlania nigrofasciata</i>	4	4	4
メイランディア属	<i>Maylandia sp.</i>	1		1
フランミンゴシクリッド	<i>Amphilophus citrinellus</i>		1	1
コウタイ	<i>Channa asiatica</i>	1	1	1